

取 扱 説 明 書
アルファレッカー車
(212 α M 型)

株式会社ネットファクトリー75

●ご使用前に必ず本書をお読み下さい。

はじめに

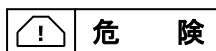
この度は弊社製品をお求めいただきまして、誠に有り難うございます。

本機をご利用していただくにあたり、常に正しい操作と正しい取扱いを行ってください。

本書に反する使用や誤った操作及び点検・整備は、死亡・人身事故や機械の故障を引き起こす原因となります。

本機を使用する前に本書を良く読み、内容を理解してから本機の操作及び点検・整備を行ってください。

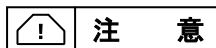
●本文中に使用されている記号は、人に及ぼす危険の度合いにより『危険』『警告』『注意』の区分があります。



・・・・・・・・ 守らないと死亡事故や重大な障害を招く、差し迫った危険がある場合



・・・・・・・・ 守らないと重大な障害を招く、潜在的な危険がある場合



・・・・・・・・ 守らないと重大な危険には至らないが、障害となる潜在的な危険がある場合



・・・・・・・・ 作業や保守に関し、守らないと機器や装置が損傷したり、機能が低下したりする場合および作業に関する情報に使用しています。

●本書はいつでも読めるように、必ず自動車の運転室内に保管してください。

●製品の改良にともない、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

●シャシ（自動車）の取扱い方法はシャシメーカーの取扱説明書をお読みください。

●その他の装備品および、搭載品の取扱方法は各メーカーの個別の取扱説明書をお読みください。

目 次

1 章	必読！作業を行う前に	3
2 章	操作方法	6
3 章	始業前点検	10
4 章	日常の手入れ	11
5 章	保守	11
6 章	銘板	12

1 章 必読！作業を行う前に

- 本章には、本機を使用いただく上での一般的な注意事項に付いて記載してあります。
お買い上げいただいた装置・車両の具体的な注意事項は、2 章以降の該当項目のところに記載してありますので、ご使用前に必ずお読みください。
- 注意文を補足するために一部イラストを使用していますが、イラストは重要なポイントを示すものであり、形状等お客様が購入された車両と異なる場合があります。

1. 巻取装置の用途と運転資格



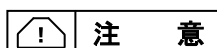
■用途

事故車等のレッカー作業に使用します。
上記以外の作業には使用しないで下さい。

■運転資格

キャブバッククレーン（ユニック、タダノ）付き車の場合には「小型移動式クレーン」の技能講習を終了し、事業者から指名された人でなければ操作できません。
（安全衛生規則第 36 条）

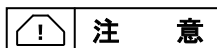
2. 定期点検の実施



点検、整備中の機械を動かすと機械の損傷や事故の危険性があります。
点検整備中は、絶対に本機の運転を行わないで下さい。

- 点検・整備中は運転禁止です。
点検・整備中は運転席や操作装置などに使用禁止等の警告札をかけ、他の作業者が誤って機械を操作しないよう予防措置をとってください。
- 作業前には、始業前点検を行ってください。
（労働安全衛生規則 1 9 4 条の 2 7 条）

3. 走行時の注意



- ・タイヤの空気圧が低い状態で走行すると走行安定性が悪くなる場合や、バーストする場合があります。空気圧は銘板で確認し、必ず規定空気圧に保ってください。
- ・工具箱や積載スペースが備えられた車両は積載スペース以外の場所に、積載物を積まないでください。
また、走行振動による積載物の落下防止措置を必ず行ってから、走行してください。
- ・布、枯れ葉等の可燃物は排気管、エンジン等の過熱部に触れると車両火災の原因になりますので必ず取り除いてください。

本機はクレーン装置に加えレッカー装置を搭載してある為、重量が重く重心位置も高くなっています。また、牽引中は全長が長くなるため、次のことに注意して走行してください。

- 長い下り坂や、雨天時の走行中は制動距離が特に伸びますので十分に注意してください。
凍結路面や雪道等は特に滑りやすい為、急ハンドルやスピードの出しすぎのないよう車間距離を十分に取り安全運転を心掛けてください。
- 急ハンドルは横転事故につながる場合もありますので、避けてください。
特に冬用タイヤ使用時は、走行安定性が低下する場合がありますので注意してください。
- タイヤの空気圧は、車両の銘板に示されている規定圧に保ってください。
- 高さ制限のある道路では建造物に当たらないように注意してください。

参 考

- 軟弱路、木橋、重量制限のある道路では、通行が可能かどうか車検証を参考に、重量を確認してから走行してください。
- 乗車設備以外の場所に人を乗せて走行すると道路交通法違反になります。
- 本機は、後方視界が悪くなっています。後退時には、誘導者をつけてその指示に従って運転するか、バックモニターで後方を確認しながら運転を行ってください。

4. 作業前の注意

- 本書や本機の銘板には、安全作業に必要な指示と警告が書かれています。
作業前にそれらを良く読み、理解してから作業を行ってください。
- 作業に合った服を着用し、保護帽・安全靴・手袋および安全帯等を必ず着用してください。
- 2名以上で作業を行う場合には、相互の連絡不備による事故防止の為に、作業指揮者および合図を決めて指示にもとづいて作業を行ってください。
(労働安全衛生規則第194条の10および12)
- 夜間作業の場合は、作業場の明かりを確保してください。特に操作部は誤操作防止の為、暗くならないようにしてください。(労働安全衛生規則第523条)

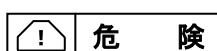
- 暖機運転を行ってから作業をはじめてください。

暖機運転を怠ると、本機の寿命の短縮や作動不良の原因となります。作業を始める前にP T OをONにし、暖機運転を行ってください。特に冬期は、十分な暖機運転を行ってください。

- 可燃物（燃料・オイル等）は火気に注意して取扱ってください。
- 万一の事故や火災に対して、救急箱や消火器を備えておいてください。
- 過労や睡眠不足などで体調が悪いときや飲酒時は、作業を行わないでください。
注意力が散漫になり、いざというときの危険回避のための判断を狂わせ、事故につながります。

5. 車両設置時の注意

1 作業位置への車両の止め方



- ・ パーキングブレーキを確実に掛け輪止めをしてください。
- ・ パーキングブレーキが不完全な場合、輪止めを乗り越え大変危険な状態になります。
- ・ 傾斜地であっても輪止めは必ず後輪前後に置いてください。



- ・ 標識の設置、迂回路の設定および衝突防止対策等を行い、歩行者および通行車両に対する事故防止対策をしてください。
- ・ 輪止めは車載の輪止めか、同等のものを使用し、必ずタイヤに密着させてください。
- ・ 輪止めは左右の後輪の前後にしてください。

6. 冬期および寒冷地での注意

- 冬期間等、外気温度が低い場合や降雪時は、次の点に注意して作業を行ってください。守って頂かないと、車両の作動不良や人身事故につながる場合があります。
- ① 車輛への昇降の際は、工具箱・フロア上面およびステップ等は特に滑りやすいので注意してください。
 - ② 積雪時を走行する時は、タイヤハウス内で固まった冰雪はこまめに取り除いてください。そのままにすると、走行時にハンドルを取られることがあります危険です。
 - ③ 車両等に冰雪が付着した場合の対応方法として、直接お湯をかけないで下さい。
急激な温度変化により、ひびが入ったり割れたりすることがあり、機器類の故障の原因になります。

2 章 操作方法

1 外観



I 油圧装置の使用方法

- ① キャビン内 PTO スイッチで油圧装置をご利用できますが本車両は 2 種類の油圧装置がついている為、前側のクレーンと後部のレッカー装置を切り替えて使用します。
レバーはクレーン後部の収納庫前です
前に倒すとクレーン、後ろ方向でレッカー装置です。(貼付銘板参照)
- ② アンダーリフトは 3 系統の操作方法がございます。
 1. ラジコン(ウィンチも)
*便利ですが加減が難しいので操作に慣れが必要です。
 2. 車体左後部下のリモコン(作業灯の点灯も行います)
*牽引車の下周りを確認しながらの操作に重宝します。
 3. 車体後部右側のコントロールレバー
*微妙な力加減での操作に適しています。
お好みや状況によりお使い分けてください。
- ③ クレーンは専用説明書をご覧ください。

2.ドーリー搭載方法

- ① ドーリーのタイヤ受けを所定の位置にセットし、手前のサイドレール受けは奥へ倒しておきます。



セッティング角度はお試しのうえ判断ください。

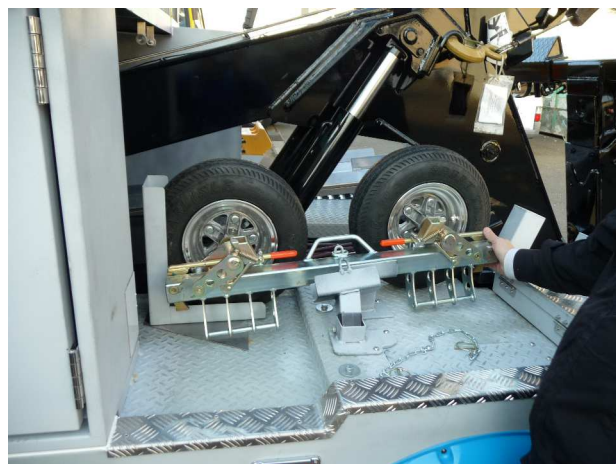
そこへドーリーの前輪を入れる



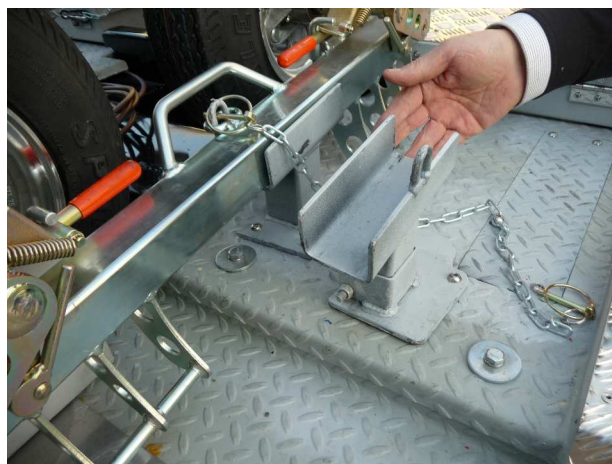
次に後輪を持ち上げてレール受けに乗せる



リングピンでロックして終了

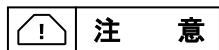


手前のドーリー搭載時は架台を起こしてからの方のせてください。

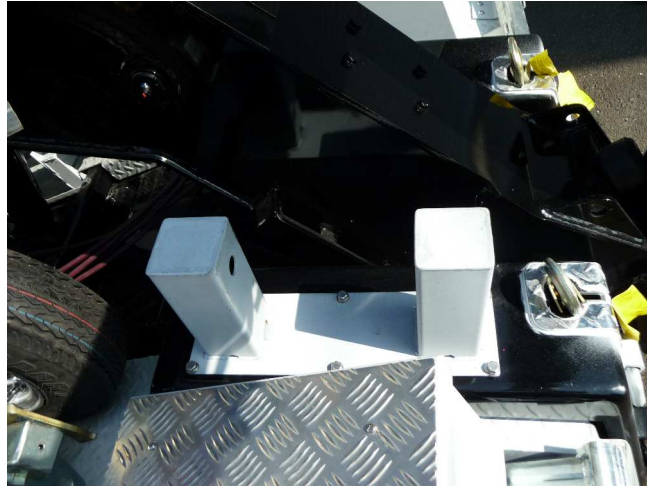


3.クロスチューブの収納について

クロスチューブ（2本）の収納位置は車体左後部に設けてあります。



クロスチューブ（2本）を収納し、アンダーリフトを格納状態にする場合、角度によっては干渉する部分がありますので、注意して操作してください。



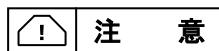
4.鳥居部の収納架台（枠）について

- 鳥居部の収納架台は事故車から脱落した大きな破損パーツ置き場などとしてご使用いただけます。
*搭載するパーツの形状は考慮していませんので走行時は落下しないようロープ等で固縛してください。
- 架台の中央部分はレッカーブームの起伏に合わせて、せり上がりますのでご注意ください。
*この機構は、空間の有効活用のためであり、レッカーブームの起伏角度が最大になった時の破損防止策とウィンチワイヤの交換や点検などのメンテナンス性向上を目的としております。

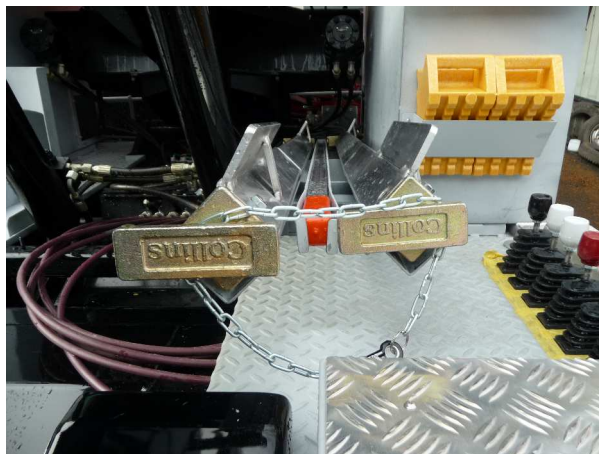


5.ドーリーバーの収納について

- 収納する際、ドーリーバーの向きは、下記のように『コリンズ』の文字が逆さ向きにしてください。



収納後は走行時の脱落防止策として、必ずチェーンやゴムバンド、荷締ベルトなどで固縛してください。



6.フロントフックについて

- フロントフックは牽引作業時のワイヤー脱落防止の為『シャクル』式にしてあります。



構造的には全方位から牽引できますが、強度的には

『前方向』への負荷しか耐えられませんご注意ください。

7.配電盤について

本車両は電気系統の保護の為、専用配電盤を設けています。

- 特色としてはヒューズがブレーカータイプとなっており、ブレーカーが『切れて』もボタンを押すと復帰しますので、ヒューズ交換は不要です。
- または本車両は尾灯やサイドウィンカー等増設しており通常は車両側リレーを増設用に交換しますが、本車両は配電盤内にリレーを設けおきますので一元管理ができます。
配電盤の『結線図』は配電盤フタの内側に貼り付けであります。

8.その他の注意

- クレーンとレッカー装置の同時操作は出来ませんので
車体左右にあるレバーで使用する側に油圧を切り換えてください。
- クレーンの操作は、
クレーンの取扱説明書および、本体添付のステッカーに従ってください。
- レッカー装置の操作は、
レッカー装置クレーンの取扱説明書および、本体添付のステッカーに従ってください。
- P T Oレバーまたは、スイッチの操作は、架装してありますシャーシのメーカーによって、
形状、操作方法が異なりますので、シャーシ側の取扱説明書を参照してください。



- ・ P T O操作前に各操作レバーまたはスイッチが「O F F」になっていることを確認してください。「O F F」になっていないと、P T Oを入れた時に架装部が動く恐れがあり、危険です。
- ・ 輪止めは車載の輪止めか、同等のものを使用し、両側の後輪の前後に設置させ必ずタイヤに密着させてください。
- ・ 排気ブレーキ（エキゾーストブレーキ）付の車両は、必ず排気ブレーキのスイッチを「切」（O F F）にしてください。排気ブレーキが作動したまま作業を行うと、エンジンの回転速度が上昇しなかったり、排気管から黒煙が出たりする場合があります。
- ・ マニュアル車の場合シフトレバーが中立でないとエンジン始動・停止操作を行ったときに車両が動き、危険です。必ず中立位置にしてください。
- ・ 走行時は必ずP T Oを切ってください。P T Oを入れたまま走行した場合、車輛および、装置の故障原因になり、大変危険です。

3章 始業前点検

点検項目

- 手順1 車両の周囲を1周周り、目視で油洩れおよび銘板や車体の破損がないか確認してください。
- 手順2 作動油の量を確認してください。車両格納状態でレベルゲージのH～Lの間にあれば正常です。油圧ホースに亀裂や油漏れがないか確認してください。亀裂のある場合は、直ちに交換してください。
- 手順4 各部を作動させて異音および作動状況の確認を行ってください。
ウインチのワイヤーロープは次の場合は使用を中止し、新品と交換してください。
- ・ キンクしたもの。
 - ・ 著しい型崩れまたは著しい腐食があるもの。
 - ・ ワイヤーロープ1ヨリの間において素線の数の10%以上が切断しているもの。
 - ・ 直径の減少が公称径の7%を超えるもの。（公称径9ミリ）
 - ・ ワイヤーロープ端部の圧縮止めが著しく傷付いているもの



始業前点検時に異常があった場合はそのまま作業を行わず、正常な状態に戻してから使用してください。

そのまま使用すると重大事故の原因になります。

4 章 日常の手入れ

1. 作動油温の確認

作動油の温度が 90℃以上の異常高温になった場合は、各装置の機能が低下又は損傷を受けますのでアクセルを「低」にしたまましばらくおいて、温度が下がってから作業を行ってください。

電装品およびケーブル接続個所は高圧洗浄を行わないでください。

2. 融雪剤の除去

冬場の走行で融雪剤が付着した場合は随時洗車してください。

車輦の寿命に格段の差が出ます。

5 章 保 守

1. 給脂箇所と給脂時期

各グリスニップルに適宜給脂してください。給脂：グリス（一般）

3. 作動油の補給

- ・ レベルゲージで油量を確認し、不足分を注油口から補給してください。（#32 相当）
- ・ 油量はレベルゲージの H～L の間に保ってください。

2. 給油箇所と交換時期

作動油交換

1, 200 時間又は 12 ヶ月毎に交換してください。（#32 相当）

（但し、初回のみ、300 時間又は 3 ヶ月後に交換してください。）

4. フィルタ

作動油交換時、サクションフィルタ及びラインフィルタの交換を行ってください。

5. 油圧ホース

油圧ホースに亀裂、破損、油漏れ等がありましたら直ちに使用を中止し、弊社に連絡ください。

なお、部品発注の場合は、次の事を併せてお知らせください。

（1）ホースの種類：ゴム又はナイロン

（2）取付場所：どの部品のどの部分からどの部品のどの接続までかをお知らせください。

- (3) 油圧ホースの長さ：両端金具の先端までを示す。
ゴムホースの長さは、口金（片側）に打刻があります。

6. 銘板



注 意

- ・ 銘板の破損及び汚損は、危険作業につながり正しい取り扱いの妨げになります。
始業前点検時に確認し、破損や汚損がある場合は、直ちに汚れを落とすか新しいものと交換し、確実に判別できるようにしておいてください。

最後に

今後とも正しい使用方法を守っていただき、
安全に末永くご愛顧いただけますようお願い申し上げます。

事務所

〒983-0034

仙台市宮城野区扇町 4 丁目 1-17

株式会社ネットファクトリー75

電話 022-349-9156 ファックス 022-349-9165

工場

〒983-0034

仙台市宮城野区扇町 3 丁目 1-19

松栄扇町第 2 倉庫